

財団の「ことづくり生活」活動方針

キーワード < 解釈・あいだ・曖昧の許容 >

1. 暮らしの中の**解釈**が人をつくる

- ・私たちは自らの意思で身の回りを解釈して意味づけし、そこに意義や価値を見い出します
- ・情報のインプットには知識も大切ですが、異なる視点を複数得ることはもっと大切です
- ・暮らしの中で「？」を感じるきっかけを得て、見かたや考えかた、感じかたを更新させましょう

2. 自らで答えを豊かに創造する

- ・私たちの人生に失敗はなく、あるのは経験（事実）と実感（解釈）です
- ・人の解釈は、情報の分解や再構成スクラップアンドビルドによって、自らの都合に合わせやすい特徴があります
- ・時代や社会、身近な情報から自分なりの答えをつくり、心豊かな暮らしを営みましょう

3. **あいだ**探しという旅

- ・私たちが自由につくる自分なりの答えとは、正解でもあり、不正解でもある状態です
- ・ひとつの存在や概念などには、常に複数の情報（原因や結果、意味や意図など）が紐付いています
- ・知識と想像のあいだをたゆたって共通点や差異点を探するなど、俯瞰の姿勢を意識しましょう

4. 謎かけや謎解きの自己演出

- ・同じもの・ことを見ても、解釈のしかたで多様な意味や価値などが生まれます
- ・人の想像性は、どこかの理論や常識に付度する必要がありません（敢えて反対する、など）
- ・他者と解釈をすりあわせる、楽しさや難しさの経験を積み上げましょう

5. **曖昧の許容**（偶発性や不確実性の容認）

- ・偶発性の優先度を、事前の計画性と同程度に位置づけてみましょう
- ・曖昧さは思い込みや縛りから解放されるきっかけを生み、心にゆとりをもたらします
- ・不確実性への期待から新たな解釈を生み出して、ささやかな開拓心を揺さぶりましょう

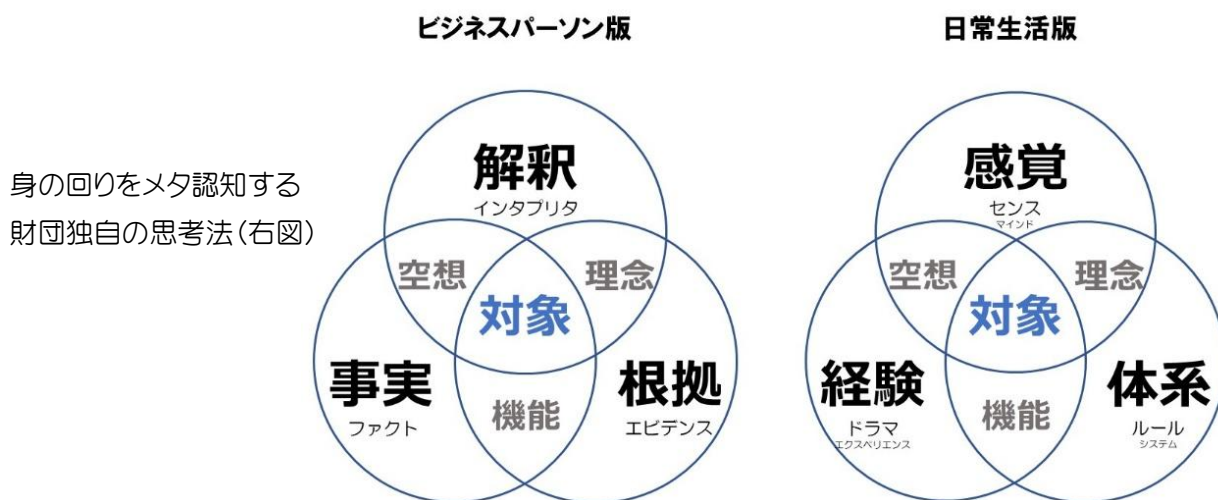
6. こだわりへの自覚と実践

- ・成果や結論アチーブメントに縛られると、日常の「ふるまい」が息苦しくなります
- ・もの・ことの本質は、財団独自の「へそ思考」でじっくり俯瞰してみましょう
- ・自分らしいこだわりは残しながら、時代や社会の流れに身を任せる様さまも楽しみましょう

これらの活動プロセスは、図工・美術教育で行う表現活動の方向性と重なる点が多いのです。
ですから財団の基本方針は、図工・美術教育を活用しています。

ことづくり生活 (解釈や過程を楽しむ) 評価ポイント

- ① 過去の体験や情報の上に、追加や削除、変更や更新などの工夫点が加わりましたか
- ② 偶発性や不確実性を織り込んで、そこに期待する気持ちを高められましたか
- ③ 知識や心情に基づく情報を、だれかと対等に交換し合う「対話」を楽しめましたか
- ④ 複数の対象（物質や概念など）を選択して、あいだ探しが試せましたか
- ⑤ 思考が逡巡しても、本質を見失わないシステム（自分ルール）が見つかりましたか
- ⑥ 目の前の答えに固執せず、問いと答えの往還をゆったりと楽しめましたか



財団が大切にしてきた「こと」 (一部紹介)

時間は誰にも公平に訪れる
解釈することは生きること
モノは数多のコトで成り立ち、変化する一瞬を切り取って見ている

命をつなぐ以上に、今日することなんて、あまりない
明日のあなたを今日より輝かせることが、きっとある
すべきこととしたいことは、一致しないからおもしろい

ひとつ試すと、自分の殻が1枚脱げる
失敗は、気づきと思えば苦にならない
だれかの答えが、あなたの答えとは限らない
答えは常にあなたの中で、あなたが気づくのを待っている

など